

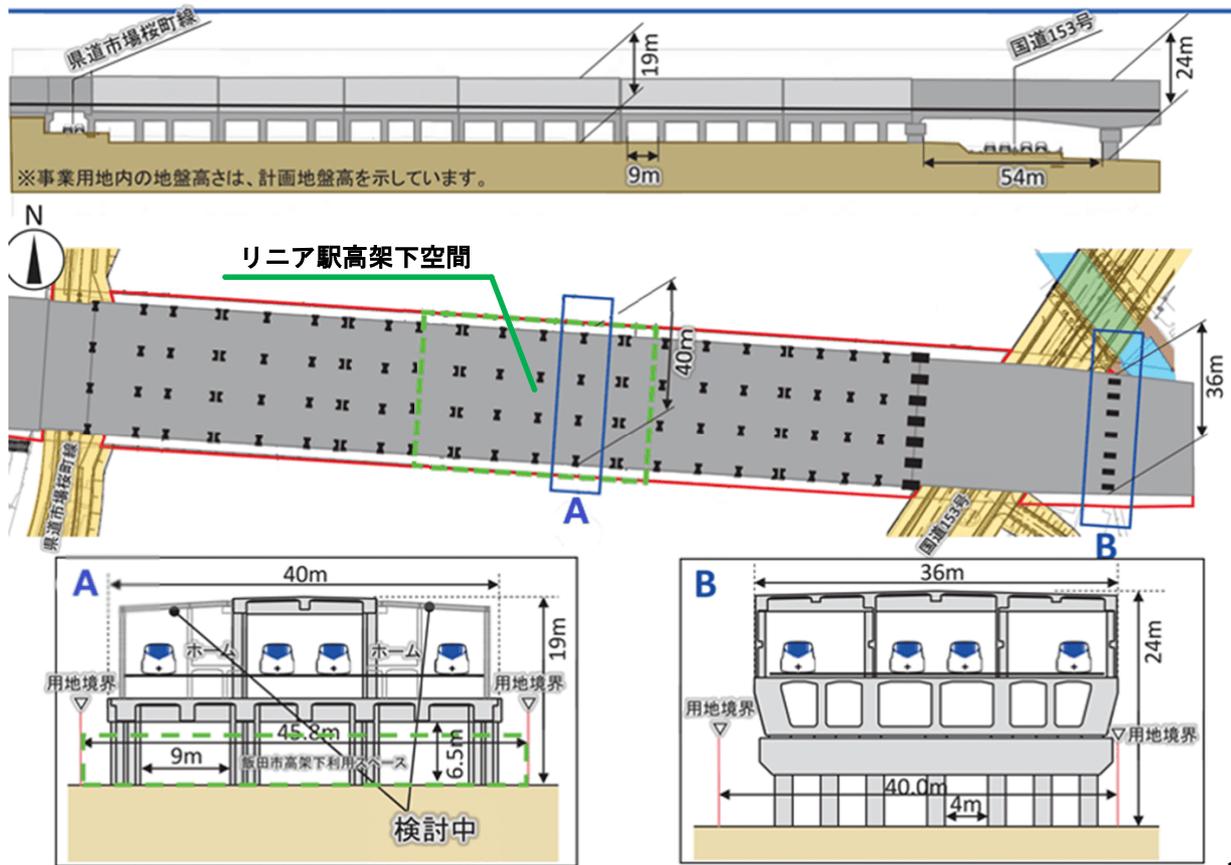
飯田市内における リニア駅周辺整備事業の状況

飯田市 リニア推進部

リニア駅の位置



リニア駅の概要



JR東海説明会資料に一部加筆

リニア駅前広場の平面図 (土木実施設計より)

北側
【交通結節機能】

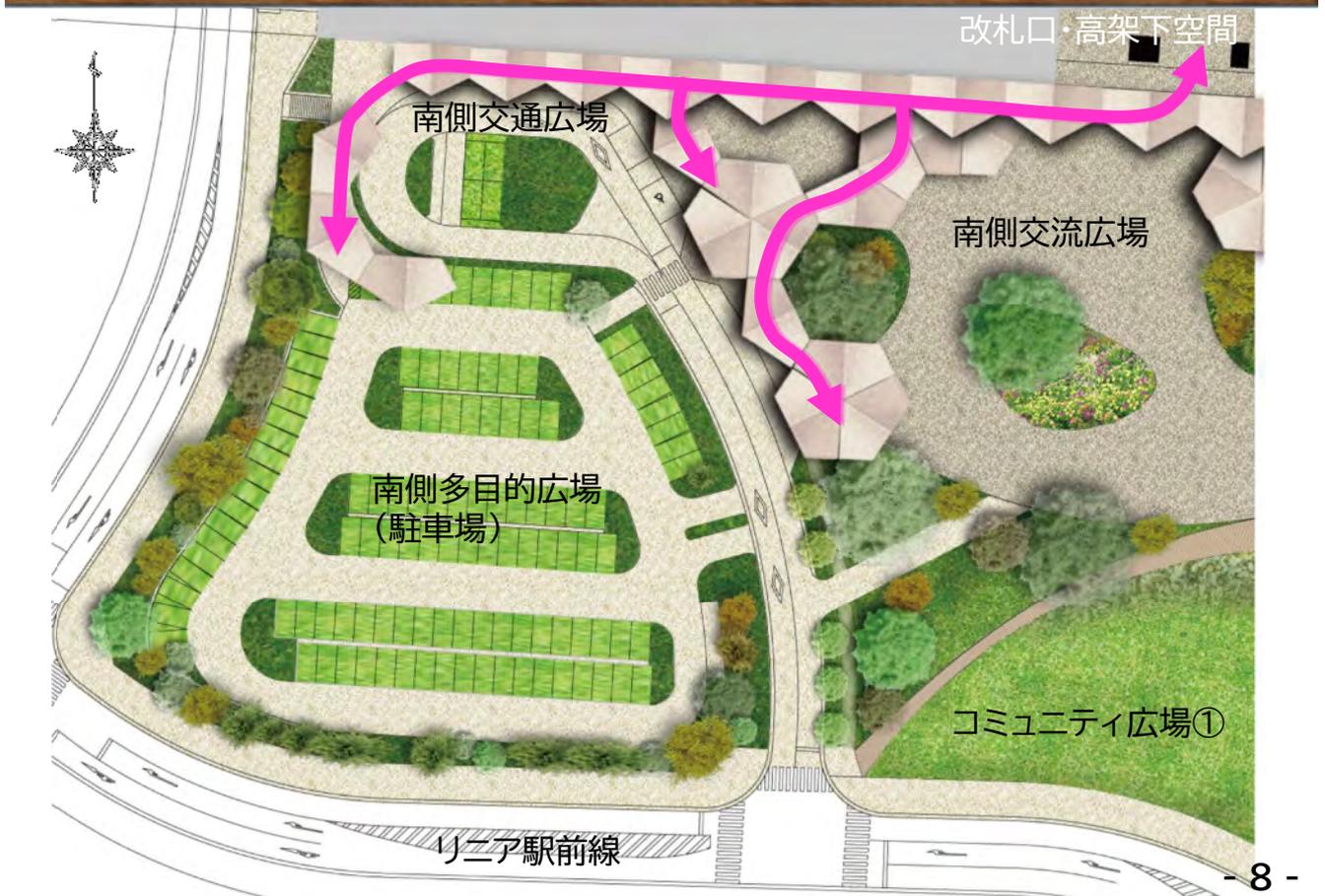


南側
【広場的な機能】

北側交通広場エリア



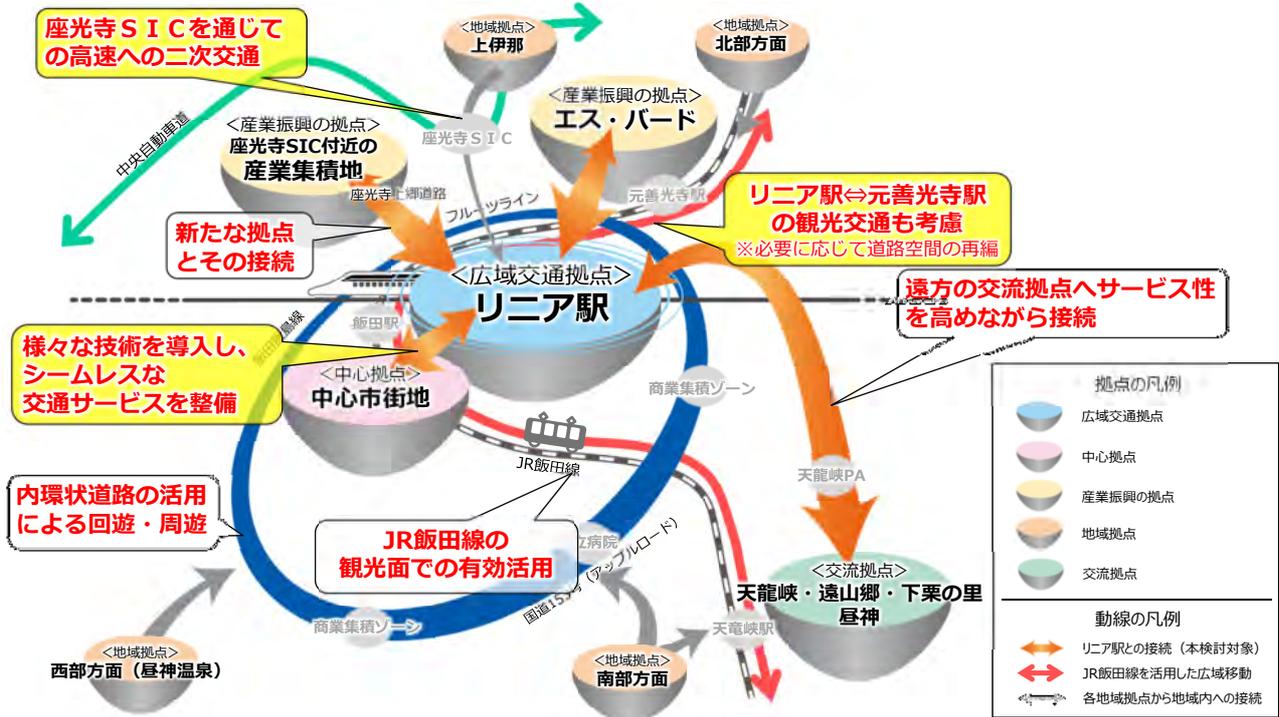
南側交通広場エリア



リニアからの二次交通の検討

地域全体の交通環境改善を図ることができるよう、今後さらなる具体化を検討していく。

- ： 中心市街地をはじめ、各拠点とリニア駅との接続について、様々な技術を導入しつつ、高頻度・シームレスな交通サービスを整備を行う
- ： 地域の拠点や特徴をふまえた交通サービスを展開する



リニア駅と飯田線既存駅を結ぶ

■リニア駅～エス・バード(元善光寺駅)

接続の考え方

- ・ 広域交通拠点（リニア駅）と産業振興の拠点（エス・バード）を接続
- ・ 広域交通拠点（リニア駅）と元善光寺及び元善光寺駅との接続

想定される利用者

- ・ 通勤や商談目的等のビジネスマンが**迅速に拠点間を移動**
- ・ 飯田市民、周辺町村住民の**リニア駅との往来経路**
- ・ 経路途中に位置する元善光寺への**観光利用**

重要視する機能（ビジネスと観光利用を両立する区間）

- シームレスな接続の確保
- 元善光寺等の**観光拠点に立ち寄れる機動性**

	ビジネス（直通）	ビジネス（立ち寄り）	観光
既存技術で想定される接続	 バス(有人)	 タクシー	 徒歩 レンタル・シェアサイクル 人力車
将来技術で想定される接続	 小型自動運転バス	 超小型モビリティ(自動運転)	 (搭乗型移動支援ロボット、原動機付歩行補助車)

[求められる機能]

- ・ 予約不要・速達性
- ・ 長距離移動の手荷物を搭載可能な容量

[求められる機能]

- ・ 自由な目的地の設定
- ・ ビジネスパーソン2～3人が乗車可能な容量

[求められる機能]

- ・ 街並みや景色が見え、移動自体を楽しめる
- ・ どこにでも停められ、気軽に観光ができる

駐車場エリア



駐車場システム

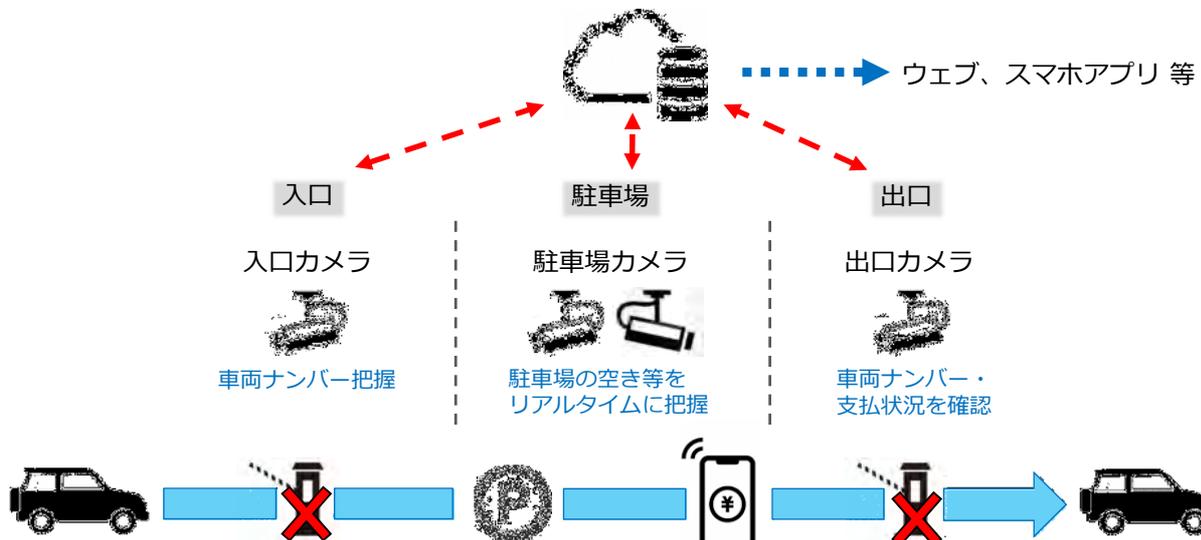
駐車場システムの概念

駐車場をより使いやすく、より安全に、よりスムーズに

- ・カメラシステムの導入 → 車両ナンバー認識による利便性の向上、防犯性の向上 等
- ・スマホアプリとの連動 → 空き駐車場の検索、予約、キャッシュレス決済、MaaS連携 等
- ・ゲートでの入出庫管理 → カメラと連動し開閉を自動化、停電や災害時等でも出庫が可能 等

駐車場システムの検討案

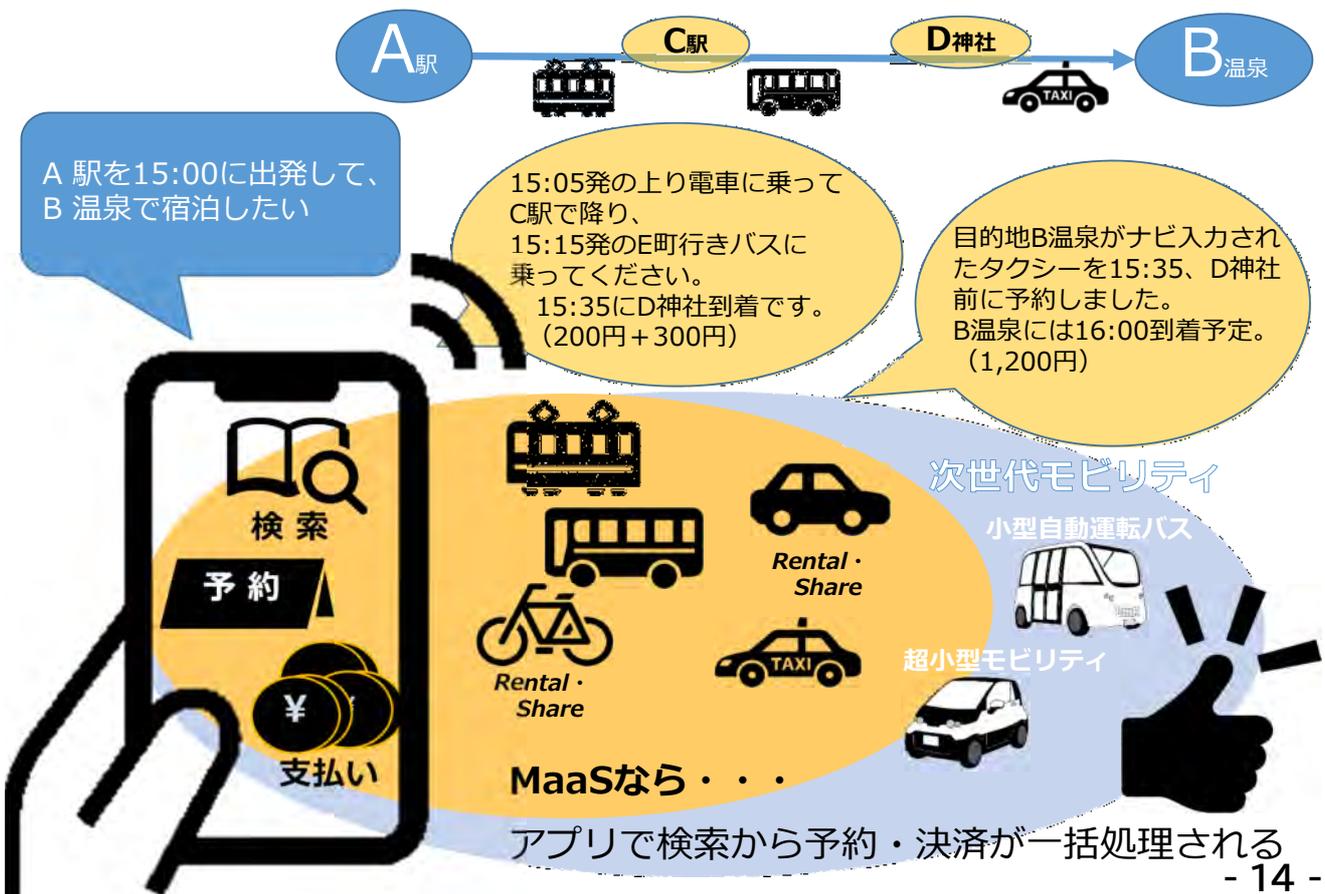
クラウド (インターネット上のファイル保管場所) でのデータ管理



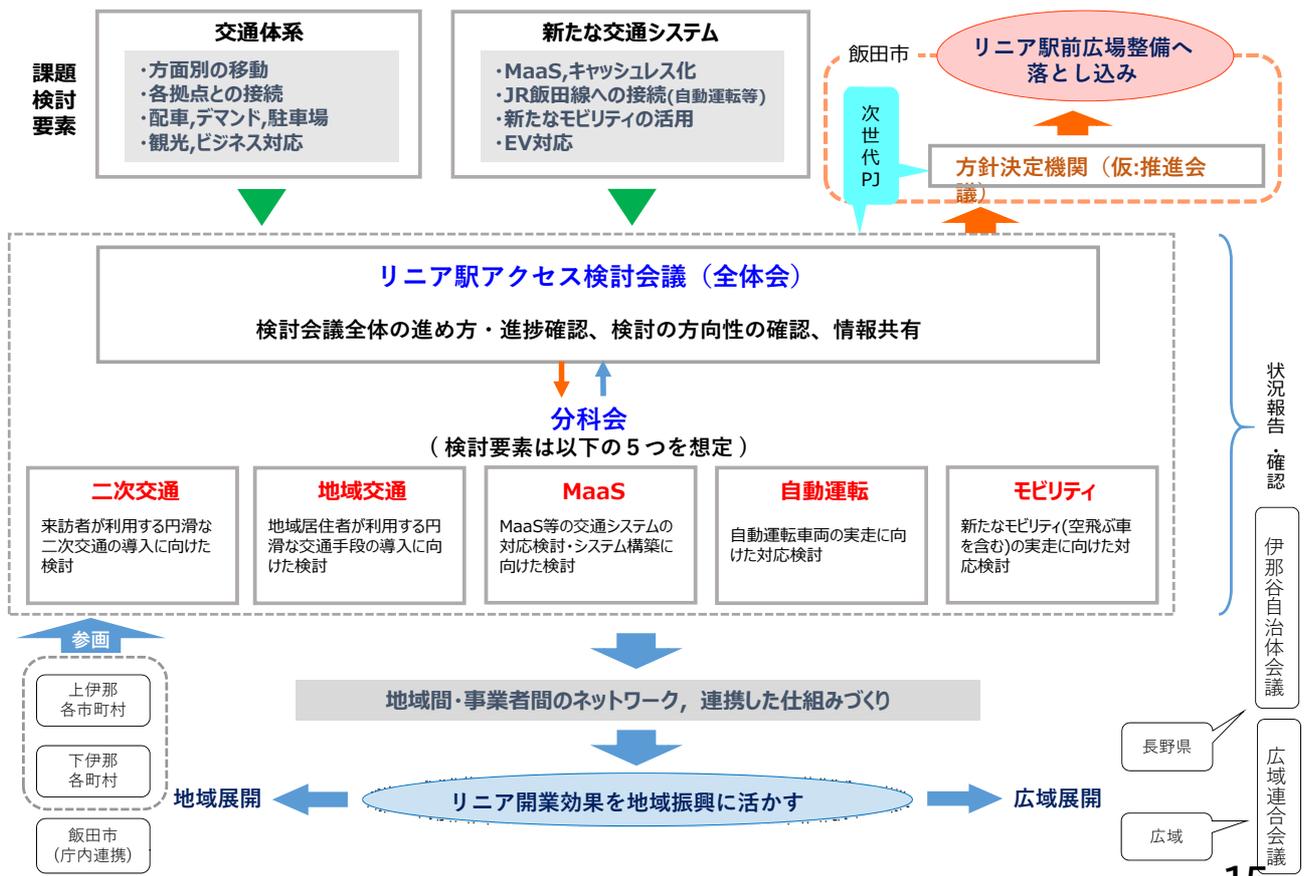
新たなモビリティへの対応



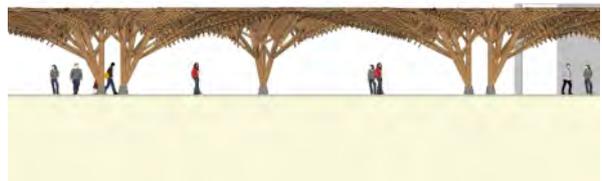
MaaSの活用



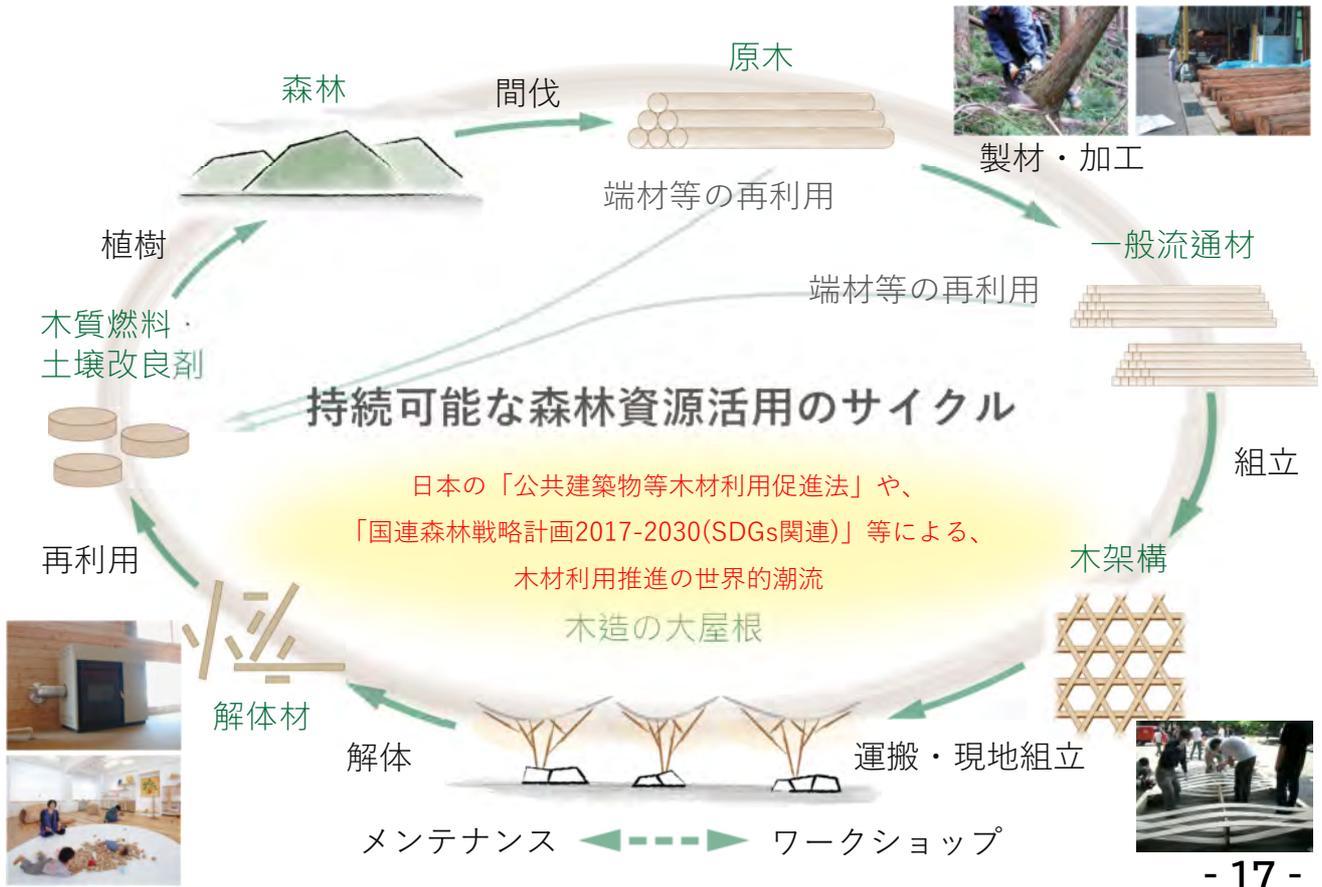
リニア駅アクセス検討会議の検討体制



木造の大屋根イメージ → 設計



森林資源の活用に向けて



グリーンインフラの検討



ゼロカーボンシティの実現に向けて

世界の目標



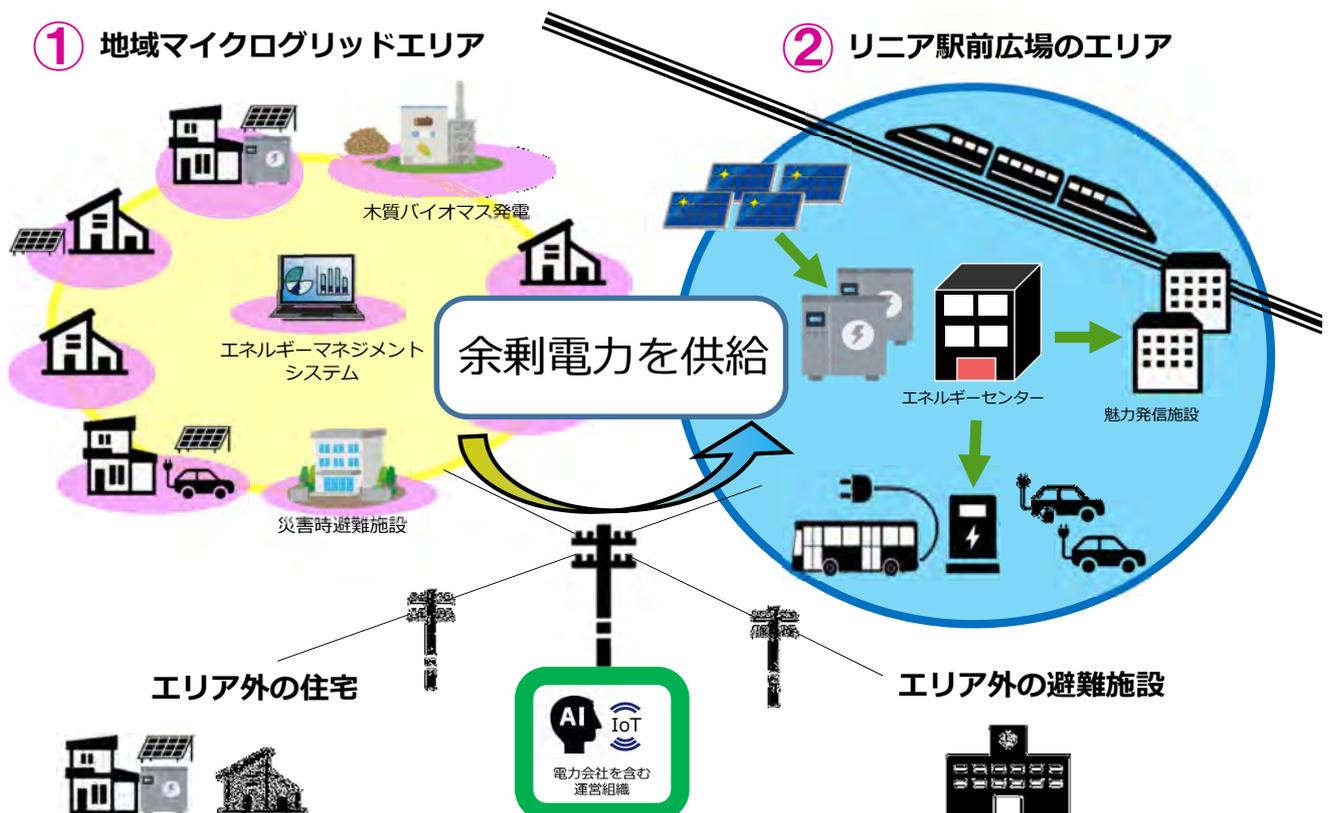
飯田市の取組み

- 「環境文化都市」 宣言（平成19年3月）
- 「環境モデル都市」 認定（平成21年1月）
- 「地域環境権条例」 施行（平成25年4月）

➡ リニア駅前広場も、CO₂の排出実質ゼロ
= ゼロエミッションを！

- 19 -

リニア駅のゼロエミッション（平常時）



- 20 -

リニア中央新幹線

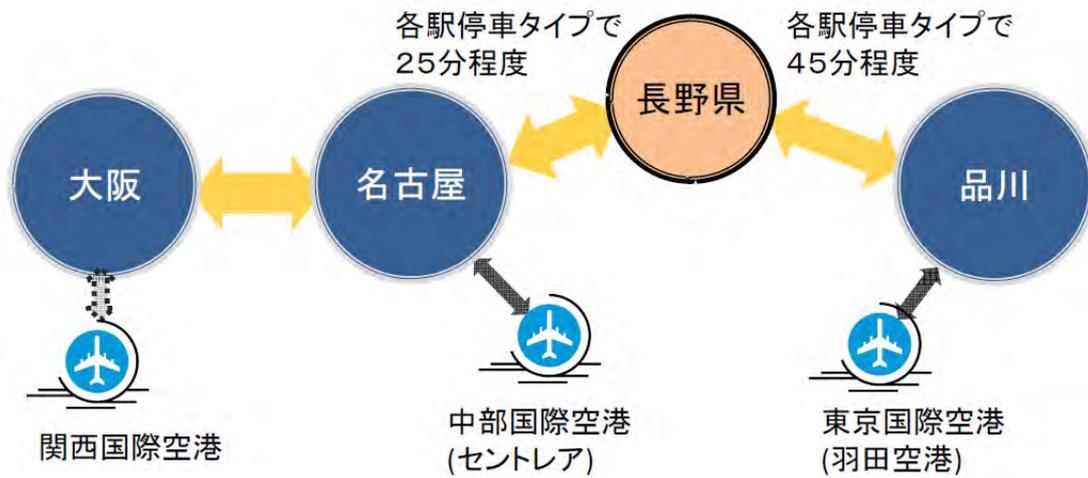
事業の意義

飯田下伊那がスーパーメガリージョンの圏域内に！

(長野県と三大都市圏のアクセスが大幅に向上)

- ・長野県内から、東京・名古屋・大阪の各都市圏や国際空港への移動が飛躍的に便利になります。

中央新幹線による到達時分(現在の想定)



JR東海事業説明会資料より抜粋

- 21 -

リニア駅の活用に向けて

よくある期待

リニアがまちをつくる
利便性の高い都市型ライフがもたらされる



リニアが、そのまま恩恵を運んでくるわけではない

直面する実状

6,800人/日の
乗降客数

時間は短縮しても移動
そのものへのハードル
(コスト・労力)は残る
※わざわざ動く理由が必要

移動圏の広がりには
競争増・流出増加にも

追求するものと帰路

施設単体の
不動産事業
の利益

均質化
特徴のない
ナショナル
チェーン店

エリア運営

中間駅
巨大都市圏
の中の衛星
都市

弱い求心力・
発信力
独自性の
無さ

広域での位置づけ

- 22 -

交流広場・コミュニティ広場における賑わいの創出



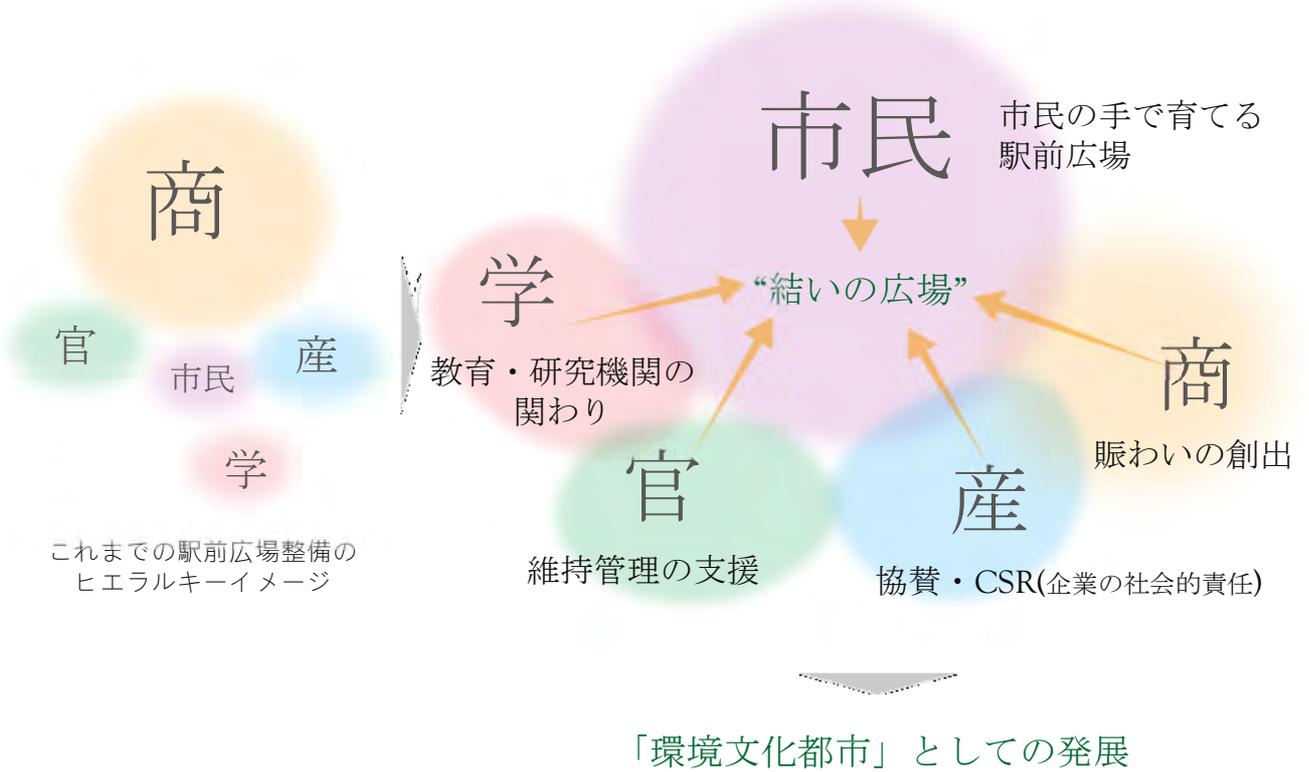
- 23 -

高架下空間・交流広場における賑わいの創出

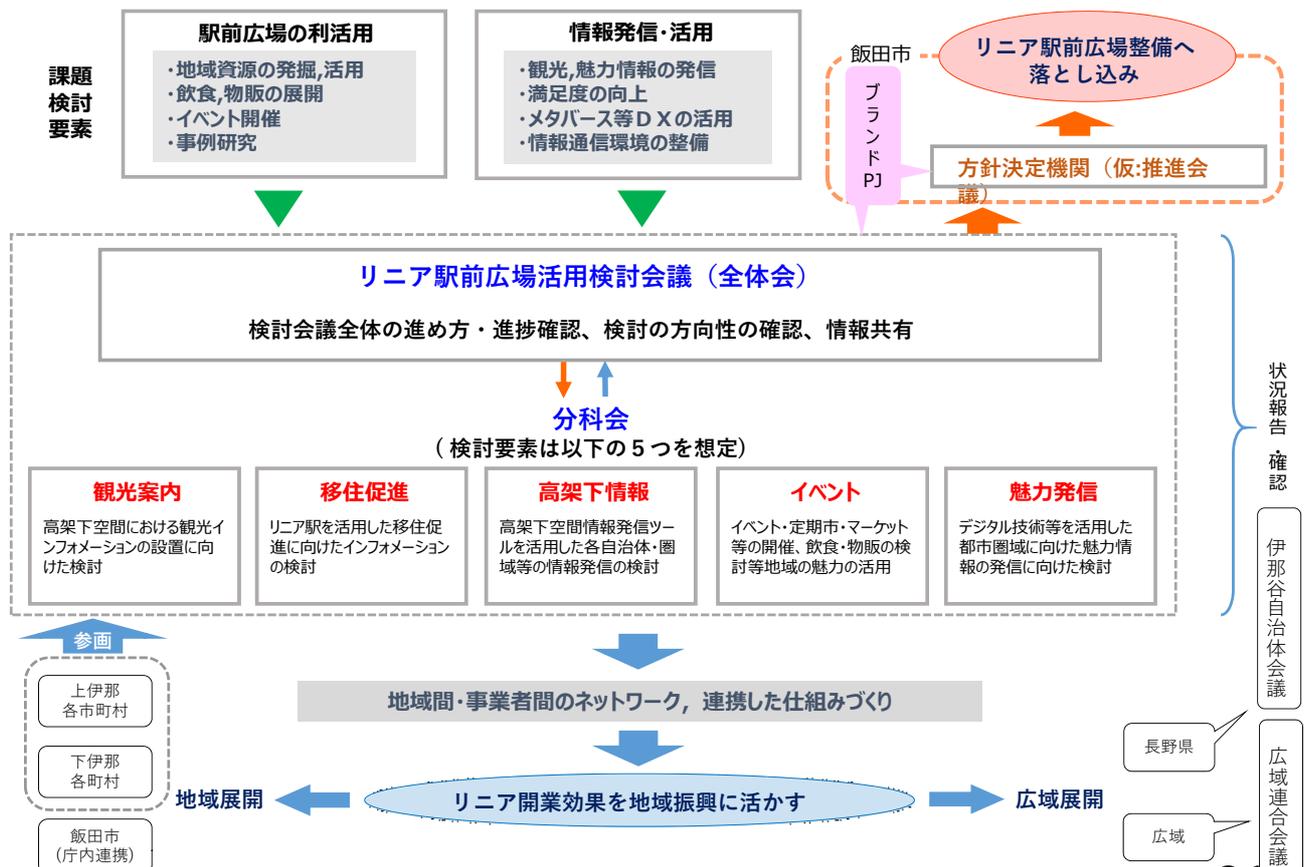


- 24 -

リニア駅前広場を共につくる



リニア駅前広場の広域的な活用検討図



飯田市におけるこれまでの検討の状況

●リニア駅周辺整備の検討経過

- S 48 リニア中央新幹線基本計画決定
- H 23 整備計画決定
- H 25 飯田市への駅設置決定
- H 27 リニア駅周辺整備基本構想策定
- H 29 長野工区工事着手
リニア駅周辺整備基本計画策定
リニア駅周辺整備基本設計着手
- R 1 リニア駅周辺整備基本設計完了
- R 2 リニア駅周辺整備土木の実施設計着手
- R 3 リニア駅周辺整備土木の実施設計完了
リニアの開業効果を地域振興に活かすビジョン策定
- R 5 土地利用計画・景観の検討
- R ? リニア開業

●佐久平駅の経過（参考）

- S 47 北陸新幹線基本計画決定
- S 63 運輸省によるミニ新幹線構想案提出
- H 2 フル規格で佐久駅ルート決定
- H 5 佐久駅(仮称)周辺整備構想策定調査報告書
- H 6 土地区画整理事業の都市計画決定
- H 7 土地区画整理事業の事業計画決定
- H 8 街並み・まちづくり計画策定
佐久駅周辺土地区画整理事業着手
佐久平駅名称決定
- H 9 佐久平駅開業
- H 9 岩村田西本町区画整理事業着手
- H 15 佐久駅周辺土地区画整理事業完成

リニアを核としたまちづくり・土地利用の考え方

拠点集約連携型都市構造

「地域の多様性をいかし、豊かな暮らしを実現する持続可能なまち」を目指し、各拠点の有機的な相互連携を推進する。

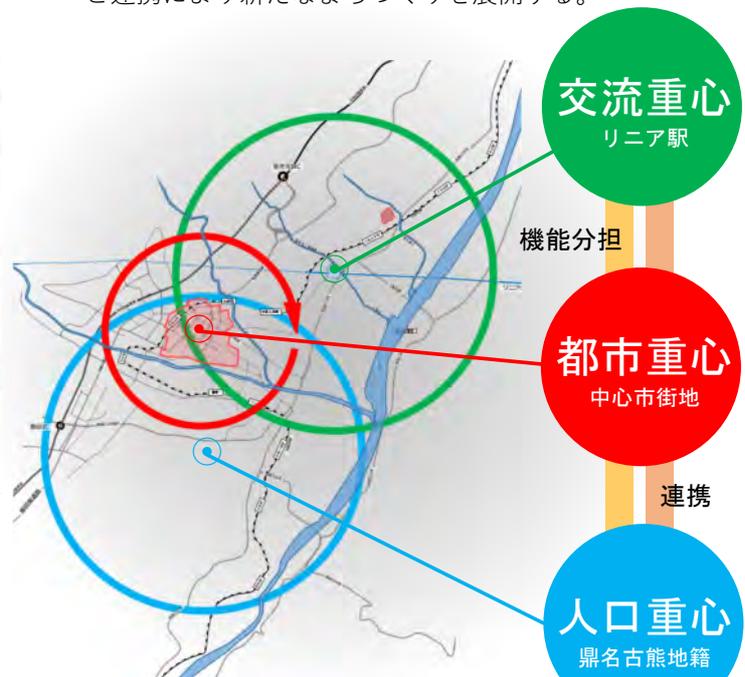
飯田市土地利用基本方針



中心拠点、広域交通拠点、及び地域拠点でも生活の中心機能の集積する地域は、都市の重要な機能を担っているが、インフラ整備などの様々な要素も踏まえた新たな視点からの検討が必要。

「3重心」のまちづくり

リニア時代のまちづくりの視点として、都市機能の集積を担う『都市重心』・『人口重心』・『交流重心』の3重心を意識したまちづくりを基本に据え、機能分担と連携により新たなまちづくりを展開する。

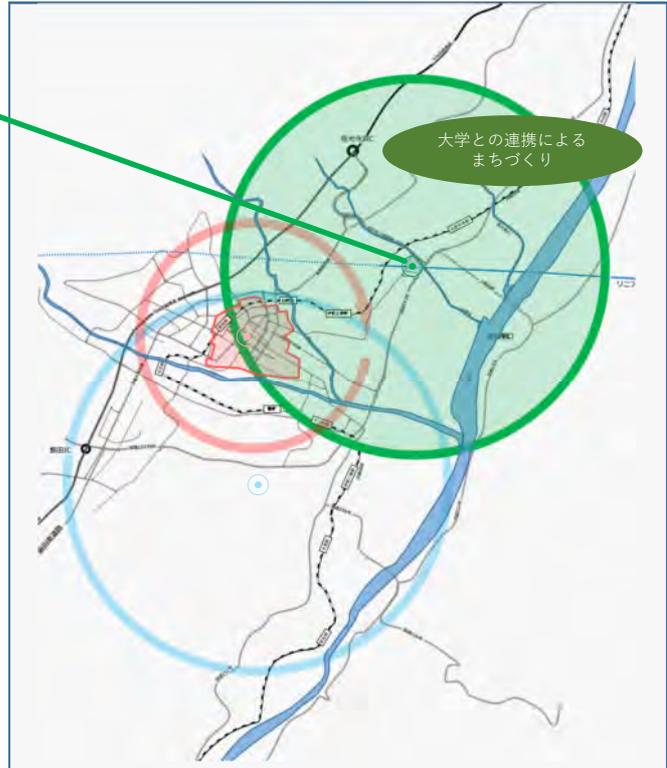


3 重心の考え方（交流重心）

交流重心

[リニア活用グリーンエリア]

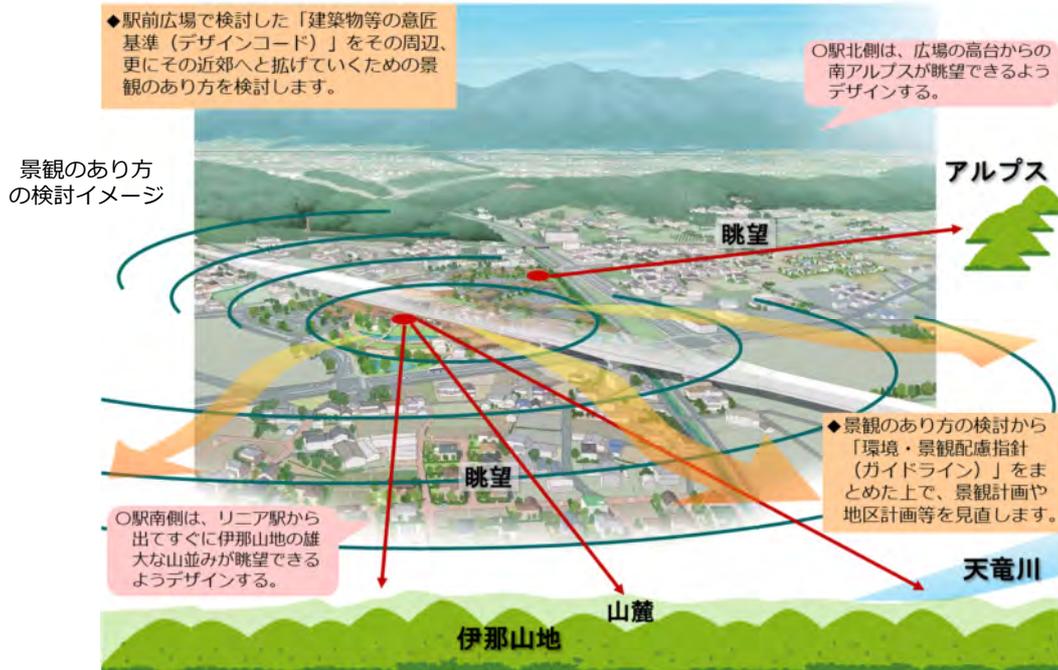
- ゼロカーボンシティモデル
ZEH/ マイクログリッド
- グリーンインフラを活用したまちづくり
大屋根/ 透水性舗装/ フットパス
- サステナブルオフィスゾーン
サテライトオフィス/ バックアップ
オフィス/ テレワークオフィス/
多様な働き方/ グリーンビジネスの
実証/ 地域内企業との連携/ 人材育成
や研究開発/ 新たなビジネスの創出
- 研究開発型企業・機関の誘致
- 民間投資促進エリア
民間投資の呼び込み/
グリーン企業の進出
- 開発候補地
複合アリーナ
- 新しいライフスタイル
二地域居住、大都市勤務・通学など



景観のあり方の検討

(2) 景観のあり方

- ・リニア駅周辺整備区域内の視点場を選定し、視点場からの眺望の検証と駅前広場の建築物等の意匠基準（デザインコード）を基に、駅周辺・その近郊における景観のあり方の検討を行い、「環境・景観配慮指針（案）」を策定する。
- ・この指針をガイドラインとして、リニア駅周辺での建替え等への配慮を誘導するほか、景観計画や地区計画等の変更により、必要に応じて高さ制限や形態意匠等の基準を見直す。



リニア駅前空間 平面図及び機能



北側多目的広場(臨時駐車場)

多目的に利用できる広場。
東には南アルプスや伊那山地が眺望できるビューポイント。
さまざまなイベント(マルシェやキッチンカー、グルメフェスなど)による多目的な使い方が考えられる。
駐車場混雑時には臨時駐車場として、59台の駐車が可能。

北側駐車場①・②

原地形を生かしながら造成。
環境や景観に配慮し、舗装面は緑化舗装にするなど、多面的なグリーンインフラを整備し、緑に囲まれた駐車場とする。
駐車台数は2箇所で291台。園路には、木造の大屋根を配置する。

多目的空間

大型バスの待機所として活用。
将来、次世代モビリティの普及による可変性を備えたスペース。
(EVバスやレンタカー、カーシェアリングなどのスペース及び水素などのエコ・ステーションの設置など)

北側・南側交流広場

駅の南北をつなぐ空間。結いの広場として、住民や来訪者の交流と憩いの場となる。
木造の大屋根の下を活用して、さまざまなイベントなどでの活用が考えられる。

北側交通広場(短時間駐車場)

移動の拠点となる玄関口。
コンパクトで利便性が高く、スムーズな乗り継ぎが行える。
改札口への歩行者動線には木造の大屋根を配置し、天候バリアフリーを確保。
短時間駐車場には、35台の駐車が可能。

南側交通広場

自家用車やタクシーで利用される方を想定。
改札口への歩行者動線には木造の大屋根を配置し、天候バリアフリーを確保。

南側多目的広場(広場利用者駐車場)

地域住民の日常利用に対応した駐車スペース。
イベント時には、多目的にも利用できる広場。
駐車台数は115台。

コミュニティ広場①・②

様々な用途やイベントの数、規模に応じて使い分けができるように、園路によって広場を2つに分割。
災害の発生が予想されるような豪雨時のために、防災調整池の機能も兼ね備えている。



これまでの報告会や意見交換会および発表会などは、YouTube「飯田市チャンネル」からご視聴ください。

詳細は市ウェブサイトID検索
またはQRコードから

ID 20223321 検索

